

昭和十三年六月

球磨川改修計畫概要

## 球磨川改修計畫概要

球磨川ハ往古ヨリ我國三急流ノ一ツニ數ヘラレ、其ノ源ヲ九州山脈ニ發シ峽流ヲナシ、人吉盆地ニ入り最大支川川邊川ヲ合シ再ビ峽流トナリテ九州山脈ヲ横斷シ、宮地村ニテ八代平野ニ出デ遂ニ八代灣ニ注グ。

本川上流ハ山岳重疊シ平地尠シト雖モ、水力發電地點ニ富ミ既設發電々力量年産額三千五百萬「キロワット」時ヲ算シ、更ニ近時軍需工業ノ勃興ニ伴ヒ千八百二十萬「キロワット」時ノ電力増加計畫アリト稱セラル。

平地ハ九州山脈ニヨリ兩斷セラレ上流ヲ人吉盆地、下流ヲ八代平野トナス、人吉盆地ハ農業、林業共ニ盛ニシテ其ノ中心人吉町ハ物資ノ集散地ニ當リ、鐵道肥薩線及府縣道ハ主要交通路ヲナス、八代平野ハ扇狀ノ平野ニシテ農業盛ナルノミナラズ八代町ハ球磨川及肥薩線ニヨリテ人吉盆地ノ物資ヲ吞吐シ、又鐵道鹿兒島本線ニヨリ福岡、熊本、鹿兒島地方ニ通ジ、且ツ前面ニ天草諸島ヲ擁シ近時海陸交通ノ發達ト電力供給ノ至便トニヨリ各種工業ノ興隆ヲ促スニ至レリ。

本川ハ平野ニ於ケル流路延長尠カラズ、沿岸約一萬二千六百「ヘクタール」ノ耕地ニ灌溉用水ヲ供給スルノミナラズ、幹線流路約百十四軒中八十六軒ハ舟楫ノ便ヲ有シ、

又上流部ハ流筏路トシテ木材ノ搬出ニ利用セラル、斯如沿岸民ノ本川ニ負フ處極メテ大ナリト雖モ、水害モ亦甚大ニシテ上流人吉盆地ノ如キハ殆ンド無堤ニシテ洪水ノ氾濫ニ委ネラレ、下流八代平野ハ極メテ低地ナルノミナラズ球磨川本川及派川前川、南川ニ分流シ、其ノ堤防ハ矮小薄弱ニシテ一朝洪水ニ遭遇セバ破堤溢水續出シ、平野ノ大半水底ニ没シ其ノ慘害名狀スベカラズ、水害損失極メテ激烈ニシテ沿岸民ハ洪水ノ脅威ヲ感ズルコト甚大ナリキ。

之レ多年本川改修ヲ要望セル所以ニシテ政府モ其ノ急務ナルヲ認め、昭和十二年度ヨリ之ガ改修工事ニ着手スルコト、ナレリ、今調査資料並計畫ノ大要ヲ記セバ次ノ如シ。

- 一、流域面積 全流域 一、八八二平方糎 内地 一、七〇一平方糎  
平地 一、八一平方糎
- 一、灌溉面積 全流域 一二、六〇〇「ヘクタール」 改修區域内 六、〇〇〇「ヘクタール」
- 一、水害面積 全流域 一四、八〇〇「ヘクタール」 改修區域内 一、九〇〇「ヘクタール」
- 一、水害損失額 全流域 自大正八年 一〇ヶ年平均 二四二、七八九圓  
至昭和三年
- 最大 昭和二年 三九七、六四二圓
- 一、改修區域 左岸熊本縣八代郡高田村 以下海ニ至ル 九糎  
右岸全縣全郡宮地村
- 一、改修計畫

本改修計畫ニ於テハ改修起點ヨリ南川分派點ニ至ル區間ハ現在河狀ニ倣ヒ在來堤防ヲ擴張補強シ、兩岸無堤箇所ニハ新ニ堤防ヲ設ケ氾濫ヲ防止シ、南川分派點以下ハ在來ノ球磨川幹川ヲ締切リテ廢川トナスト共ニ南川ヲ擴張シ幹川ト成スモノニシテ、可及的在來堤防ヲ利用擴張スルト雖モ河積不充分ナル箇所ハ引堤シテ河幅ヲ擴メ、尙低水敷ノ堀鑿ヲ施シ所要ノ河積ヲ得計畫洪水量ヲ快疏セシムルモノトス、而シテ流路ノ屈曲著シキ部分ニハ護岸又ハ水制ヲ施シ堤防及護岸ノ安固ヲ期シ併テ河身ノ移動ヲ防グモノトス。

一、計畫洪水量

幹川 改修起點ヨリ前川分派點迄 每秒五、〇〇〇立方糎

前川分派點以下 每秒四、〇〇〇立方糎

派川 前川 每秒一、〇〇〇立方糎

一、計畫河幅 二六〇米乃至七九〇米

一、計畫堤防 天端幅七米、表法二割、裏法二割乃至二割五分、尙四米ノ裏小段ヲ付シ天端餘裕高ヲ一米五トス

一、浚渫土量 二、九六〇、〇〇〇立方糎

一、掘鑿土量 一、四九〇、〇〇〇立方糎

一、築堤七量 七五〇、〇〇〇立方米

一、改修工事費 三、五一〇、〇〇〇圓

内國費 二、二七二、〇〇〇圓  
地方費 一、二三八、〇〇〇圓

一、工事期間 自昭和十二年度 一四ケ年  
至昭和二十五年年度

一、改修ノ効果

(イ)、八代町外十四ヶ町村一一、九〇〇「ヘクタール」ノ水害ハ全ク除去サレ、年々被ル災害復舊費ノ外耕宅地ノ諸損耗ニ基ク莫大ナル水害損失ヲ免レ、且ツ農産物ノ生産額ハ著シク増加スベシ。

(ロ)、前川河口ニ存スル八代港ノ土砂堆積ヲ輕減シ、地方民ノ多年要望セル八代港修築計畫ヲ確立スルコトヲ得、八代町及附近町村ノ經濟的發展ニ資スルコト極メテ大ナルベシ。

(ハ)、南川分派點以下ノ在來幹川ハ廢川トナルヲ以テ、後日埋立整理ヲナスニ於テハ廣大ナル土地ヲ得ベシ。

(ニ)、改修區域附近ノ交通機關安全性ヲ増進シ、八代町並其ノ附近ノ都市計畫ヲ容易ナラシメ、橋梁其ノ他土木施設モ改善セラレ運輸交通ノ利便ヲ増加スコルト多大ナルベシ。

昭和十三年六月

## 内務省下關土木出張所